

民主島根

2022年
4.24
第1404号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

松江 平和と暮らしの進路かかった参院選

原発ゼロ ぶれない共産党躍進を

小池書記局長、にひ前参院議員、福住参院鳥取・島根選挙区予定候補が訴え



400人の聴衆を前に、声援に応える(右から)にひ参院比例予定候補、小池書記局長、福住・参院選挙区予定候補 (松江市)

日本共産党の小池晃書記局長は10日、松江市内で演説し、公示まで2カ月半を切った参院選の躍進に向けて支援を呼びかけました。

小池氏は、ロシアによるウクライナ侵略について「『主権の尊重』『領土の保全』『武力行使の禁止』を定めた国連憲章違反であり、病院、学校、原発への攻撃は国際人道法違反の戦争犯罪だ」と批判。その上で2度の緊急国連総会がロシア非難決議を140カ国以上の賛成で採択したことなどを示し、「平和を求める世界の圧倒的世論で侵略を止めよう」と訴えました。

また、小池氏は「ロシアはもともと共産主義」という誤解について、「旧ソ連は共産主義とは無縁

の覇権主義、専制主義の抑圧国家であり、事実上は正反対」と述べ、1991年のソ連共産党の解体にあたって日本共産党が「もろ手を挙げて歓迎すべき歴史の出来事」と表明していたことを紹介。

「日本共産党は、ソ連共産党の覇権主義的干渉とたたかい、打ち破った歴史を持つ党だ」と述べ、「どんな国であれ覇権主義は許さない。この一点で国際社会が団結を」と呼びかけると会場は大きな拍手で応えました。

小池氏は「やさしく強い経済」の実現を巡り、世界各国が2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロの目標を掲げる中、日本は9カ所の石炭火力の新増設や原発再稼働を狙っていると批判

判。島根原発は唯一県庁所在地にあり、要介護などで避難時に支援が必要なのは日本で一番多い5万2千人だと述べ、「再稼働せず、原発ゼロの島根へ」と訴えました。

小池氏は、自衛隊に關わって「日本国憲法は悲惨な戦争を経て『二度と戦争しない』と誓い、軍隊を持たないと宣言した」と述べ、「この原点はウクライナの事態のもとでますます重要だ」と強調。「憲法9条は、戦争を放棄し、武力の保持を禁じているが『無抵抗主義』ではない」と述べ、「9条のもとでも個別的自衛権は存在し、必要な場合にその権利を行使し、日本を守ることは当然だ。共産党は9条も、国民の命も守り抜く立場だ」と訴えました。

にひそうへい前参院議員

島根原発2号機について、島根原発対策特別委員会は13日、「再稼働を了」とした自民、公明らの委員の賛成多数で、県議会として再稼働を事実上容認しました。再稼働反対の請願・陳情計7件は不採択となり、再稼働賛成の請願・陳情計5件が採択されました。

自民、公明の委員らは「原発は安定・安価で気候変動問題を考えた時に欠かせない」と主張。こ

大田市議選(定数18・立候補20人)で日本共産党の亀谷優子氏(現)が2期目の当選を果たし、宮脇康郎氏(新)が初当選しました。山を削り新たな道路建設計画がある大田市駅東側再開発(約56億円)の見直し・凍結や県内一高い水道料金の負担軽減などを訴えました。

得票率は7・83%で2021年衆院選7・31%を上回りました。開票結果は次の通りです。

亀谷 優子(現) 826票・12位
宮脇 康郎(新) 565票・17位

は「原発ゼロでぶれない共産党の躍進で島根原発再稼働をストップさせよう」と呼びかけました。

島根県内各地で視聴会場が設けられ、安来市で50代の男性、美郷町で60代の女性がそれぞれ入党を決意しました。

福住ひでゆき参院鳥取・島根選挙区予定候補

大田市議選 現有2議席確保

亀谷 優子(現) 826票・12位
宮脇 康郎(新) 565票・17位

景色の主役だった桜はその座を退き、生垣のカナメモチの新芽の赤が鮮やかだ。季節がいつものように移り変わる一方で、我々人間は今までと異なる日々を生きている▼二年余りに及ぶコロナ禍の苦境だけではない。この二十世紀にあって、そして平和憲法を手にし、不戦を誓った日本でありながら、『戦争』か『平和』かという究極の選択肢を突きつけられているのだ▼ここ

鼓動

景色の主役だった桜はその座を退き、生垣のカナメモチの新芽の赤が鮮やかだ。季節がいつものように移り変わる一方で、我々人間は今までと異なる日々を生きている▼二年余りに及ぶコロナ禍の苦境だけではない。この二十世紀にあって、そして平和憲法を手にし、不戦を誓った日本でありながら、『戦争』か『平和』かという究極の選択肢を突きつけられているのだ▼ここ

の問いにおける主語である。それが「あなた」であれば、当然、答えは「私は『平和』を選ぶ」となるだろう。しかし、それが「日本」となった時、果たして同じ選択肢が答えとなり得るか。ウクライナ危機に乗じて、改憲や核共有を喧伝する勢力がいる今の日本では、「平和」を選ぶという当然の選択すら危うい環境に、一番の主語であるはずの「私」は置かれている。このことにもっと自覚的でなくてはならない▼NHK朝ドラ「カムカムエブリバディ」では、主語を明確にするという英語の構造を再確認させられた。一方、主語を明確にしないことが多い日本語であっても、それを決して曖昧にしてはならない時があることを先ほどの問いは示唆する▼二ヶ月後に迫った参院選はこの問いに対して「私」という主語を明確に表明する機会である。『平和』を選択する日本」という答えは、「私」一人ひとりの投票行為の先にあり、それによつて得る以外ほかにない。「軍事には軍事」という戦争危機を募らせる道ではなく、最も知性的で、だからこそ努力と手数が必要な「平和外交」の道を進む日本を追求していきたい。(江)